【市民活動賞】 第20回 日本水大賞

「大淀川」流域に水源の森を
～未来の子どもたちのための1000年プロジェクト

NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会

1 はじめに

「風土は人をつくる」という言葉がある。

私たち宮崎県都城市に住むものにとって、この風土の中心にあるのは、霧島であり、都城の信仰・民俗芸能はすべてこの霧島を基にしている。霧島は都城の精神文化の源であり、祖霊のこもる山としてあがめられてきた。

霧島と同じく、都城の風土のもう一つの根幹をつくってきたのは大淀川である。霧島を父とするならば、大淀川は母である。大淀川の源流がある都城は、今も昔も、その恩恵を受けながら、歴史と文化と生活を築いている。都城市は霧島が育む清らかな水を資源に焼酎や、牛肉、豚肉、鶏肉の合計産出額が全国第1位を誇り、農産物も豊富である。

私たちが活動を始めた平成7年当時、大淀川が全国でもワースト10位に入るほど水質が悪いことが報道された。大淀川の上流域で、生活用水のすべてを地下水で賄っている都城市民は、それまで下流域に住む人たちのことを考えたことがなかったのかもしれない。しかし、それを知った市民が大淀川を守るために「何か行動を起こしたい」という声をあげた。それに応えるように、平成8年7月7日、第1回「大淀川サミット」の開催に合わせ、どんぐり1000年の森をつくる会は発足した。そして、自分たちにできることから始めようと、大淀川流域にドングリ（広葉樹の総称）を植えて、水源の森をつくることにより、きれいな水と空気を自分たちの手で生み出そうと呼びかけ、当初30名ほどの仲間が集まった。

生命の根源は山であり、山が生み出す水である

初代会長で民俗学研究家の鳥集忠男氏（故人）の言葉、「子どもたちにドングリの芽を見せたい。子どもは生命の輝きに感動する」がきっかけとなり、これまでの23年間、自分たちの手でドングリを育てることを続け、一貫して広葉樹の森づくりを行っている。

2 会の組織体制

どんぐり1000年の森をつくる会は、「今できること、私たちにできること、そして未来につながること、小さな一粒のドングリに1000年の夢を」をコンセプトとして、大淀川流域16市町の住民を中心に環境保全や植樹の必要性を呼びかけてきた。会では、

① ドングリを拾う。
② 種をまく。
③ 苗を育てる（約2～3年）
④ 大淀川の流域の山に植樹する。
⑤ 下草払いを行う（5年間）

というサイクルで植樹活動に取り組んでいる。これまで23年間で63.5haに15万7千本のドングリを植樹した。ドングリは広葉樹の総称で、シイ、カシ、クヌギなど15種類ほどを選定し植えている。

会の組織は、正会員と家族会員、そして「どんぐり株主」から成り立っている。会員は、9つの部会（総務部会、広報部会、育苗部会、育林部会、環境教室部会、どんぐり株券部会、株主募集部会、植樹会計画部会、どんぐり村部会）に分かれて活動している。しかし、「できる人が、できるときに、できることをする」をモットーにしているので、会員の中には、1年に1回の植樹会でしか顔を合わせない人、株主募集にのみ協力してくれる人など様々である。

正会員は、現在131名で、中学生から80代まで、様々

な人たちがいる。家族会員をいれると200名を超えており、小さな子どもたちもいる。活動の中で世代間交流もでき、結構おもしろい。みんなでいろいろな意見と知恵を出し合い、試行錯誤しながら実行している。それは23年間変わらないことである。

3　どんぐり株主制度

どんぐり株主は、この活動の資金確保と誰でも気軽に植樹活動に参加できるように私たちが考えた仕組みである。山に植える木のオーナーとして、一株500円の協力で「どんぐり株主」として登録する。大淀川の環境を守るために「何か行動をおこしたい、でも何をすればいいの?」という人たちが、500円の協力により、活動に参加できる制度である。株主は、協力した年度に開催する「植樹会」に招待し、会員と共にドングリの植樹を行ってもらう。参加できない人のドングリは、参加者によって植樹される。協力していただく1株500円のお金は、山の管理費（基本的に植樹から5年間の下草刈り）に充てている。

この制度を確立したことにより、当会は、宮崎県では広く知られる環境NPOに成長した。これまでの23年間で、延べ13万7千人の人が株主として登録されている。

4　1号地

植樹地は、5年間の草刈をした以降、なるべく手を入れずに自然植生に近い山（涵養林）を目指し管理している。

平成8年に植樹した「どんぐり1000年の森1号地」では、植樹から10年目に沢筋から水が流れだした。大淀川の「水源」のひとつを生み出すことに成功したのである。このせせらぎを見た時の感動は今でも忘れられない。小さな女の子がその水を飲み、「おいしい」と言っ

どんぐり株主に贈る「株券」

22号地植樹会

た笑顔も。

1号地は、水が流れ出したことで水際の動植物が観察され、生物多様性の森が再生されている。そして、その小さなせせらぎは、いつ見にいっても枯れることなく流れ続けている。他にも植樹から10年を経過した山は、それぞれの環境に応じた様々な動植物が観察できる豊かな森に成長している。自然の力には、未知の可能性と感動がある。このことは、私たちがこの活動を続けていくための大きな指標であるともいえる。

5　植樹会

年に1回の植樹会は、毎年3月の第3日曜日に開催している。これまで23回植樹会を開催したが、雨の日もあれば、とても寒い日もあった。それでも一度も中止をしたことはない。植樹会は、当初、高齢者の参加が多かった。しかし今は、小さな子どもを連れた家族の参加が多い。そんな姿を見ていると、「いい環境で子どもたちを育てたい」という親の気持ちが伝わってくる。企業からの参加も20代、30代の若い社員が協力してくれており、頼もしい限りである。植樹地は、国有林や市有林であるため、森林管理署や県・市の森林保全担当課も好意的に協力してくれる。24回も続けているが、一度も大きな事故やけが人はいない。そして、植樹会が雨であっても、申込者のほとんどが参加しており、毎回400～600人で植樹している。正に都城に春の訪れを感じさせる恒例行事として定着している。

植樹会の様子

植樹会での子どもたち

6　次世代育成のための取組み

活動継続のためには、若い世代に「森」に関心をもってもらうことが重要である。そのため、平成22年に市街地に近い森に「どんぐり村～こども自然塾」(3ヘクタール) を手づくりで整備した。この森は、子どもたちが身近に森遊びや散策ができるよう、会で管理し、一般に開放している。この森の持ち主が、私たちと思いを同じくして、無償で会に貸与してくれたため、実現したことである。

どんぐり村は、安全整備が徹底されている公共施設ではない。子どもたちの創造性を高める遊び場として

植樹会では中学生スタッフが活躍

植樹会を終えて笑顔のスタッフ

どんぐり村の拠点「どんぐりの森図書館」

ネイチャーゲームを楽しむ子どもたち

自分でつくった自然素材のおもちゃで遊ぶ子どもたち

絵本の読み聞かせ

ツリークライミングは子どもたちの大好きな遊び

竹でつくったジャングルジム

高校生もツリークライミングに挑戦

ツリーハウスで遊ぶ子どもたち

会員で掘った井戸

森のジャズコンサート

高校生による森のジャズコンサート

整備を進めてきた。今後も子どもの好奇心を大事にして、思うままにのびのびと遊べる場所でありたいと考えている。子どもは森で遊ぶことにより、その自然体験により五感を働かせ、自らたくましく生きる力を身につけることができる。たくさんの子どもたちが、その力をここで育んでほしいと願っている。

どんぐり村には、イチイガシの森があり、樹齢80〜90年のイチイガシの大木もある。竹林もあるため、管理に苦労しているが、地元の中学生と共に整備を行い、涼しくて気持ちのいい空間もつくっている。夏には、珍しい種類のクワガタやタマムシ、トンボなど、昆虫観察もできる。また、拠点施設である「どんぐりの森図書館」には、善意で寄付をいただいた絵本がたくさんあり、森の中で読書を楽しむことができる。週末になると、手作りの遊具がいっぱいの冒険の森に多くの家族が訪れ、遊んでいる。会では、ここを拠点に様々な環境教育（水辺の環境教室、キャンプ、植物・昆虫採集、観察会、ネイチャーゲーム、ツリークライミング等）も行っている。毎年、森のコンサートも開催している。野外行事は天気に左右されるが、ビニルシートをはったり、傘をさしたり、主催者も参加者も工夫しながら楽しんでいる。この森は子どもだけでなく、大人も童心に帰って楽しむ空間になっている。

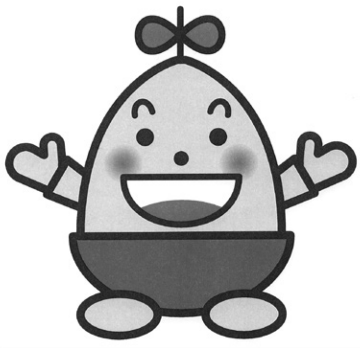
どんぐり村は、当初、水も電気もないのが特徴であった。私たちは日常、スイッチを入れれば電気がつき、蛇口をひねると水がでる便利な生活を送っている。だから、不便なこの空間で過ごすことは、とても貴重な経験である。それがいいとボーイスカウトには好評だったが、小さな子どもの親たちからは、水がないので利用しにくいという声も多かった。そのため、3年前に井戸を掘ることにした。会員が順番に機械を手でまわし、2日間掘って湧きだした貴重な水である。水があることによりビオトープもつくり、水遊びもできるようになった。利用者も増え、遠足や児童クラブの野外活動でも活用されるようになってきた。

このどんぐり村の維持管理には結構な労力とお金がかかっている。しかし、次世代育成は私たちの壮大な夢の実現のために、とても大切な使命である。そして何より、子どもたちの笑顔と笑い声は、私たちに大きな希望と勇気を与えてくれ、明るい未来を思わせてくれる。

7　1000年後の未来に向けて

私たちは、未来を生きる私たちの子孫がずっとこの風土とそこに生きる命を引き継いでほしいと願っている。そのためには私たちが未来を想う心を持つことが大切であり、行動を起こし、続けていくことが何より大事である。これからも会の基本である「ドングリを拾い、苗を育て、山に植える」ことを多くの協力者と共に地道に続けていきたい。そして一人の力は小さいけれど、みんなの力は未来につながり、子孫が命を繋ぐ自然をつくることを、多くの人たちと共有していきたい。この活動は長きにわたるため、なるべく多くの人の賛同を得るために、毎年、毎年「どんぐり株主」を募り、増やし

7号地の植樹会に参加した人たちが12年ぶりに現地を見学



どんぐりキャラクター

どんぐり1000年の森をつくる会　植樹実績

号地	植樹地	年度	実施日	天候	面積（ha）	参加者数	植樹本数	株数
1号地	山之口町永野国有林	平成 9年度	4月13日	晴れ	2.7	200	2,000	2,000
			11月9日	晴れ		140		
2号地	高城町大丸国有林	平成10年		雨のち曇	0.6	90	1,000	917
3号地	山田町長尾国有林	平成11年	3月22日	晴れ	2.2	150	2,000	2,315
4号地	都城市霧島国有林	平成12年	4月 2日	雨	3.7	170	7,500	5,203
5号地	財部町瓶台国有林	平成13年	3月25日	晴れ	3.7	200	8,500	6,298
6号地	三股町柴立国有林	平成14年	3月17日	晴れ	1.3	283	4,000	7,037
7号地	高崎町長尾国有林	平成15年	3月23日	晴れ	3.9	314	7,500	8,500
8号地	都城市権現国有林	平成16年	3月21日	雨のち曇	4.56	540	9,300	10,215
9号地	高崎町長尾国有林	平成17年	3月20日	雨のち曇	4.27	500	12,500	9,739
10号地	高城町四家国有林	平成18年	3月19日	晴れ	3.16	620	12,400	10,147
11号地	三股町轟木国有林	平成19年	3月18日	晴れ	4.32	434	13,500	9,070
12号地	高城町中山国有林	平成20年	3月16日	晴れ	3.1	470	10,000	8,060
13号地	山田町長尾国有林	平成21年	3月15日	晴れ	5.5	600	10,200	7,787
14号地	高城町田辺国有林	平成22年	3月21日	晴れ	5.04	676	13,000	6,911
15号地	山之口町青井岳国有林	平成23年	3月20日	雨のち曇	4.8	640	14,500	6,297
16号地	山田町パークゴルフ場周辺山林	平成24年	3月18日	雨	3.2	600	8,000	7,193
17号地	高城町蓑野国有林	平成25年	3月17日	晴れ	1.93	648	6,000	5,682
18号地	山之口町青井岳国有林	平成26年	3月16日	晴れ	0.77	500	2,500	4,605
19号地	高城町四家国有林	平成27年	3月15日	雨	0.97	411	2,900	4,638
20号地	山田町長尾国有林	平成28年	3月20日	晴れ	0.97	648	3,000	5,071
21号地	宮崎市高岡町小山田地区市有林	平成29年	3月19日	晴れ	1.15	405	3,056	4,358
22号地	都城市美川町都城市有林	平成30年	3月18日	晴れ	1.6	492	4,000	5,250
		合　　計			63.44	9,731	157,356	137,293

ていくことを続けようと思う。

活動の目的はその名の通り、大淀川流域にドングリを1000年植え続けるというものである。潜在自然植生である常緑広葉樹の森を再生し、未来を生きる私たちの子孫に、豊かな自然環境を残すと同時に、「自然と共に生きる」という理念を再生する1000年の夢をかけた壮大なプロジェクトである。

「よい風土を子どもたちに引き継ぎたい」この思いがある限り、私たちはドングリを植え続けていくだろう。そして、「大淀川を日本一の清流にしたい」いつか実現する日がくるまで、私たちの挑戦は続いていく。1000年と言わず、未来ある限り私たちはこの活動を続け、前進していこうと思う。

NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会